

五郷のこれから

いま、五郷の“つながり”が問われています。

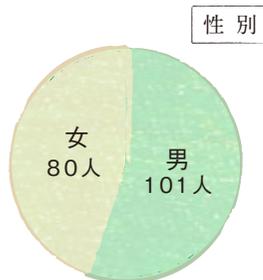
●過去5年間で、2つの「五郷」が消えました。

1つは、「地図上」の五郷。2005年10月、大野原町と観音寺市との合併により「五郷」という地名はなくなりました。もう一つは、「五郷小学校」の廃校です。2006年3月、児童数の減少により131年の歴史に幕を閉じました。五郷小学校は、単に教育機関としての場だけでなく、5つの地区の人たちを結びつけるコミュニティの中心であり、PTAや運動会など、小学校に通う子どもたちを通じて培ってきた大人たちの交流の場でもありました。

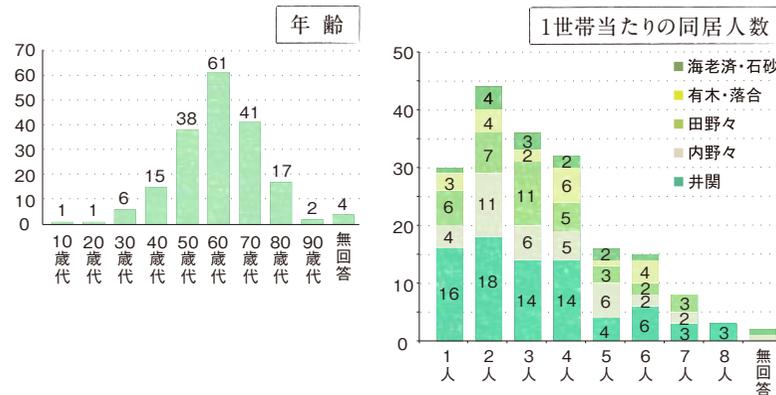
地名とは、単に土地の「呼び方」を表すだけでなく、「共同体」としての目印であり、そこに暮らす人たちのアイデンティティでもあります。2つの「五郷」の消失によって問われているのは、五郷という“つながり”そのものなのです。

そこで私たちは、五郷に住んでいる人たち(=五郷人)に、「五郷ってどんな地域なのだろう」「五郷はこれからどうすべきなのだろう」と問いかけてみました。それは、住民ひとり一人の豊かさの基準を見直すことでもあります。モノの豊かさからこころの豊かさへ。人と人との関わり方が問われている今だからこそ、みんなで考える必要があるのかもしれない。

アンケート結果 有効回答数 186 / 280世帯



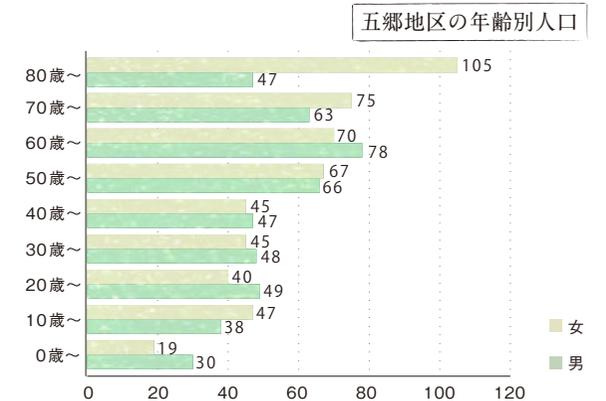
※ここで用いているデータは、香川大学経済学部西成研究室が五郷地区全世帯を対象として2010年12月にアンケート調査をした結果の一部です。



(1) 五郷の現状

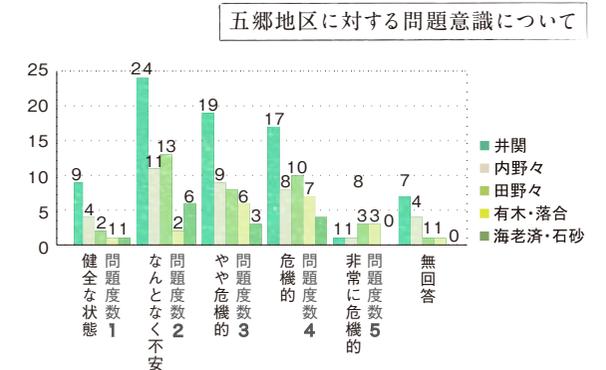
●五郷人の3人に1人は65歳以上

現在、五郷地区の人口は979人(2011年1月時点)。ちなみに、大正時代は約1500人、戦後(1950年)は2000人に達しており、ピーク時のおよそ半数以下まで減少しています。また、65歳以上の高齢者の割合は35.6%。香川県25.8%、全国平均23.1%と比べると、かなり高齢化の進んだ地域と言えます。国の推計によれば、25年後には香川県の人口は100万人から80万人に減ると予測されていますが、五郷地区はさらに速い速度で人口減少が起きると考えられます。



●五郷人は現状を「やや危機的」と感じている

五郷地区に対する問題意識度について聞いたところ、平均は2.84で「やや危機的」。しかし、有木落合、海老済、田野々では「危機的」(問題意識度4)の割合が多く、平野部から遠い集落ほど危機感が高いことがわかります。また、具体的な問題として一番多かったのは「少子高齢化」、続いて「人口減少」「農林業の衰退」。その背景には、林業やミカン栽培といった五郷の基幹産業の衰退があります。五郷の経済を担い、子どもを産み育てる世代が、住みたくなくなる環境をつくるにはどうすればいいか。手遅れになる前に、今こそ真剣に考える必要があります。



具体的にどのような問題があるか

